

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N026011 |
| 講義名 | チーム医療論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護学専門展開 |
| 科目ナンバリング | N2-4404 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 中納 美智保 | 指定なし |

目的

現在の医療・看護においてチーム医療は必要不可欠である。患者への安全で効果的な医療提供には、保健・医療・福祉の専門職による「連携と協働によるアプローチ」が重要である。この科目では、チーム医療の必要性や特徴、チーム医療における看護職の役割・必要な能力などについて学修する。

到達目標

1. チーム医療の必要性について述べることができる。
2. チーム医療における看護職の役割について説明できる。
3. ディスカッションを通して看護チームでの自分の課題が明確にできる。

授業計画表

授業計画

1. チーム医療とは何か
2. 患者の立場からチーム医療を考える
3. 看護組織におけるチーム医療
4. 医療チームに必要な能力
5. チーム医療で活躍している看護職の実際
6. チーム医療において拡大する看護師の役割
7. チーム医療の評価

成績の評価

定期試験80%・授業への取り組み度20%

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント

参考資料

授業中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2N067012 |
| 講義名 | 英語表現法ⅢA |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1304 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 南澤 佑樹 | 指定なし |

目的

グローバル社会と呼ばれる現代社会では様々なトピックに関して膨大な情報がやりとりされ、それらの情報を理解し、活用することが求められます。そのような状況にあって英語の技能を高めることは、多くの情報を入手することを可能にするだけでなく、自分自身の考えを発信するために非常に有益です。本講義では、英語を「読む・聞く・書く・話す」という4技能を高めることを目的として、観光・健康・芸術・医療・教育など現代社会を取り巻く社会状況に関するトピックに関わる英語学習活動を行います。また、それらの英語に関わる技能の向上と共に、それらのトピックに関する自分自身の意見をまとめ、発表することを通して、情報を他者に伝達する能力を高めること、グループでの活動を通して、総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

到達目標

1. 教科書で取り上げられる現代社会に関する英語表現を身につける。
2. 英語の文章構造を理解し、それをプレゼンテーションに応用する。
3. 個人で90秒程度のプレゼンテーションを行うことができるようになる。
4. グループで8分程度のプレゼンテーションを行うことができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション(成績評価・授業の進め方・自己紹介など)
2. 英語の文章構造/プレゼンテーションについて
3. Chapter1
4. 小テスト/Chapter2 /個人プレゼンテーション
5. 小テスト/Chapter3 /個人プレゼンテーション
6. 小テスト/Chapter4 /個人プレゼンテーション
7. 小テスト/Chapter6 /個人プレゼンテーション
8. 小テスト/Chapter7 /個人プレゼンテーション
9. 小テスト/Chapter10 /個人プレゼンテーション
10. 小テスト/Chapter11 /個人プレゼンテーション
11. 小テスト/Chapter13 /個人プレゼンテーション
12. 小テスト/グループプレゼンテーション準備(1)
13. グループプレゼンテーション準備(2)
14. 最終グループプレゼンテーション(1)
15. 最終グループプレゼンテーション(2)

※授業内容の理解に応じて授業の進捗・内容が変更になる場合があります。

成績の評価

出席: 5%
小テスト: 20%
個人プレゼンテーション: 20%
授業内活動: 35%
グループプレゼンテーション: 20%

自己学習

教科書の予習・復習
与えられる課題への取り組み

履修上の注意

毎授業時の教科書の予習・復習が求められます。また、授業時にスマートフォンやタブレットが持参することが望ましい。

テキスト

「ソーシャル・キーワードメディア英語で社会を読み解くー」(三修社)

参考資料

授業内で紹介します。

オフィスアワー

水曜日: 昼休みの時間帯

研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示します。

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2N067013 |
| 講義名 | 英語表現法ⅢB |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1304 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 南澤 佑樹 | 指定なし |

目的

グローバル社会と呼ばれる現代社会では様々なトピックに関して膨大な情報がやりとりされ、それらの情報を理解し、活用することが求められます。そのような状況にあって英語の技能を高めることは、多くの情報を入手することを可能にするだけでなく、自分自身の考えを発信するために非常に有益です。本講義では、英語を「読む・聞く・書く・話す」という4技能を高めることを目的として、観光・健康・芸術・医療・教育など現代社会を取り巻く社会状況に関するトピックに関わる英語学習活動を行います。また、それらの英語に関わる技能の向上と共に、それらのトピックに関する自分自身の意見をまとめ、発表することを通して、情報を他者に伝達する能力を高めること、グループでの活動を通して、総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

到達目標

1. 教科書で取り上げられる現代社会に関する英語表現を身につける。
2. 英語の文章構造を理解し、それをプレゼンテーションに応用する。
3. 個人で90秒程度のプレゼンテーションを行うことができるようになる。
4. グループで8分程度のプレゼンテーションを行うことができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション(成績評価・授業の進め方・自己紹介など)
2. 英語の文章構造/プレゼンテーションについて
3. Chapter1
4. 小テスト/Chapter2 /個人プレゼンテーション
5. 小テスト/Chapter3 /個人プレゼンテーション
6. 小テスト/Chapter4 /個人プレゼンテーション
7. 小テスト/Chapter6 /個人プレゼンテーション
8. 小テスト/Chapter7 /個人プレゼンテーション
9. 小テスト/Chapter10 /個人プレゼンテーション
10. 小テスト/Chapter11 /個人プレゼンテーション
11. 小テスト/Chapter13 /個人プレゼンテーション
12. 小テスト/グループプレゼンテーション準備(1)
13. グループプレゼンテーション準備(2)
14. 最終グループプレゼンテーション(1)
15. 最終グループプレゼンテーション(2)

※授業内容の理解に応じて授業の進度・内容が変更になる場合があります。

成績の評価

出席: 5%
小テスト: 20%
個人プレゼンテーション: 20%
授業内活動: 35%
グループプレゼンテーション: 20%

自己学習

教科書の予習・復習
与えられる課題への取り組み

履修上の注意

毎授業時の教科書の予習・復習が求められます。また、授業時にスマートフォンやタブレットが持参することが望ましい。

テキスト

「ソーシャル・キーワードメディア英語で社会を読み解くー」(三修社)

参考資料

授業内で紹介します。

オフィスアワー

水曜日: 昼休みの時間帯

研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示します。

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2N068012 |
| 講義名 | 英語表現法ⅣA |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1304 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 板垣 浩正 | 指定なし |

目的

国際語としての英語の運用能力を高め、「読む・聞く・書く・話す」といった基本的な英語の総合的な運用能力を身に付けることを目的とします。さらに、教科書は様々なトピックが選ばれておりますので、その中から、自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。また、教科書はTOEIC形式の空所補充問題も含まれており、試験対策としても活用できます。進度は受講生の理解に応じて調整する場合します。

到達目標

本講義内で使用されている基本的な英語表現を習得し、会話に応用することが出来る。本文内の主張を適切に要約できるだけでなく、自分の意見を持ち、4～8文程度であれば、辞書を使って英語でまとめることが出来る。ペアやグループで行ったディスカッションを、簡易的な英語であれば、会話や発表をすることができる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 College Sports
3. Unit 2 Hip Hop Music
4. Unit 3 Travel
5. Unit 4 Video Games
6. Unit 6 Fast Food
7. 中間確認テスト
8. Unit 8 Medical Tourism
9. Unit 11 E-commerce
10. Unit 12 Coffee Shop
11. Unit 14 SNS
12. 中間確認テスト
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1
15. プレゼンテーション2

成績の評価

平常点 20%、確認テスト40%、プレゼンテーション 40%

自己学習

授業中で指示された箇所の予習、復習をする。日本語や英語での要旨の作成、暗誦を課す場合が

あります。

履修上の注意

辞書とテキストは必携。授業へ積極的に参加することが重要です。

テキスト

1. 「English Indicator 3 <Intermediate>」(南雲堂)

参考資料

講義内で紹介します。

オフィスアワー

授業後に受付します。

事前にメール等で連絡してください。

研究室・授業用E-mail

itagaki.pmpm@gmail.com

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2N068013 |
| 講義名 | 英語表現法IVB |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1304 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 板垣 浩正 | 指定なし |

目的

国際語としての英語の運用能力を高め、「読む・聞く・書く・話す」といった基本的な英語の総合的な運用能力を身に付けることを目的とします。さらに、教科書は様々なトピックが選ばれておりますので、その中から、自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。また、教科書はTOEIC形式の空所補充問題も含まれており、試験対策としても活用できます。

進度は受講生の理解に応じて調整する場合します。

到達目標

本講義内で使用されている基本的な英語表現を習得し、会話に応用することが出来る。本文内の主張を適切に要約できるだけでなく、自分の意見を持ち、4～8文程度であれば、辞書を使って英語でまとめることが出来る。ペアやグループで行ったディスカッションを、簡易的な英語であれば、会話や発表をすることができる。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 College Sports
3. Unit 2 Hip Hop Music
4. Unit 3 Travel
5. Unit 4 Video Games
6. Unit 6 Fast Food
7. 中間確認テスト
8. Unit 8 Medical Tourism
9. Unit 11 E-commerce
10. Unit 12 Coffee Shop
11. Unit 14 SNS
12. 中間確認テスト
13. プレゼンテーション準備
14. プレゼンテーション1
15. プレゼンテーション2

成績の評価

平常点 20%、確認テスト40%、プレゼンテーション 40%

自己学習

授業中で指示された箇所の予習、復習をする。日本語や英語での要旨の作成、暗誦を課す場合が

あります。

履修上の注意

辞書とテキストは必携。授業へ積極的に参加することが重要です。

テキスト

「English Indicator 3 <Intermediate>」(南雲堂)

参考資料

講義内で紹介します。

オフィスアワー

授業後に受付します。

事前にメール等で連絡してください。

研究室・授業用E-mail

itagaki.pmpm@gmail.com

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N071011 |
| 講義名 | 疫学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2306 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 笠松 隆洋 | 指定なし |

目的

疫学は人間集団を対象に、疾病に関わる要因を究明し、疾病と要因との因果関係を明らかにすることを旨としており、健康に関する諸問題に対する有効な対策樹立に有効な学問であることを理解する。

到達目標

疾病の予防、健康の保持増進を目的とした保健活動を科学的に行うことができるようになるための知識を習得するとともに、種々の健康情報を正しく理解するための能力を身に付ける。

授業計画表

授業計画

1. 疫学基本的な考え方
2. 疫学的基本的な用語の理解、因果関係判定指標
3. 疾病頻度の表し方（有病率、罹患率、累積罹患率）
4. 疫学頻度の表し方（死亡率、致命率、相対頻度）
5. 曝露の効果を表す指標（相対危険、寄与危険）
6. 曝露の効果を表す指標（寄与危険割合、人口寄与危険割合）
7. 疫学調査方法（記述疫学）
8. 疫学調査方法（分析疫学）
9. 疫学調査方法（介入研究）
10. 疫学研究の質（母集団と標本、偶然誤差と系統誤差）
11. バイアス（選択バイアス、情報バイアス、交絡）
12. 交絡の制御方法
13. 直接法による年齢調整死亡率
14. 間接法による年齢調整死亡率
15. スクリーニング検査

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価します。

自己学習

講義終了後に教科書及び配布資料に目を通し復習するとともに、第1部・第2部・第3部にある練習問題を解いて下さい。

履修上の注意

講義中の私語及び講義途中での退席を禁止します。

テキスト

「基本からわかる看護疫学入門(第3版)」(医歯薬出版)

参考資料

「はじめて学ぶやさしい疫学—疫学への招待(改定第2版)」(南江堂)

「基礎から学ぶ楽しい疫学(第3版)」(医学書院)

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N087021 |
| 講義名 | 看護にいかすツボ刺激 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護学専門展開 |
| 科目ナンバリング | N2-4402 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松浦 英世 | 指定なし |

担当教員

松浦英世

目的

東洋医学では「病気の反応点であり、治療点である」と定義されているツボを「肩こり」や「腰痛」「足のむくみ・つり」「めまい」「頭痛」その他、床ずれの予防や乳腺症の予防等を交えてそのツボの部位と効果について解説し、マッサージ実技も交えて看護技術の一つとして応用可能な、手指による刺激方法についても概説し、総合的に患者さんへの触れかた（手当）を体験する授業をします。

到達目標

各疾患にあわせたマッサージ技術の習得
 個々の患者さんにあったマッサージ実技の習得
 患者さんへの触れ方、手当て、言葉遣いなど身につける

授業計画表

授業計画

1. マッサージの基本手技および経穴への手指刺激法
2. 肩こり（ねちがいなど）へのマッサージおよびツボ刺激
3. 頭痛・耳鳴りなどへのマッサージおよびツボ刺激
4. 疲れ目・三叉神経痛などへのマッサージおよびツボ刺激
5. 腰痛（床ずれなど）へのマッサージおよびツボ刺激
6. 内科疾患（胃痛・便秘異常など）へのマッサージおよびツボ刺激
7. 内科疾患（月経痛・泌尿器疾患など）へのマッサージおよびツボ刺激
8. 内科疾患（呼吸器など）へのマッサージおよびツボ刺激
9. 胸部疾患（乳腺症など）へのマッサージおよびツボ刺激
10. 五十肩・テニス肘等に対するマッサージおよびツボ刺激
11. 上肢（手のしびれ・腱鞘炎）へのマッサージおよびツボ刺激
12. 坐骨神経痛に対するマッサージおよびツボ刺激
13. 下肢（足のしびれ・むくみ・つりなど）へのマッサージおよびツボ刺激
14. 片麻痺に対するマッサージおよびツボ刺激
15. 治療の総括

成績の評価

レポート課題

自己学習

一般的なマッサージ理論やツボ刺激など、図書室にあるやさしく説明した本などを読み、自己の学びたいものを整理、確認しておいてください。

パウダー使用を使用します。

履修上の注意

実習部位によっては皮膚に直接行うこともあるので、薄着になっていただくことがあります。手指を清潔にし、爪は短めに切っておいて下さい。

テキスト

1. 「スポーツマッサージ」 (KATA実技指導員著)
2. 配布資料

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N090011 |
| 講義名 | 看護過程論A |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 基礎看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3104 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 中納 美智保 | 指定なし |

目的

看護は、あらゆる健康レベルにある人のニーズに対応し、その人らしい生活を支援するために看護過程を用いて実践する。この科目は人々の健康問題を解決する方法である看護過程について基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 看護過程の意義とそのプロセスを説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程の基本的な展開方法が理解できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程の基礎的な展開ができる。
4. 模擬的な電子カルテを用いて基本的な情報収集の方法が習得できる。
5. クリニカルパスと看護診断の基礎的知識が理解できる。

授業計画表

授業計画

- 1.看護過程と問題解決思考
- 2.看護過程のプロセスと事例
- 3.ゴードンの11の機能的健康パターン
- 4.アセスメントのための基礎的知識（生体検査と生体情報のモニタリング）
- 5.アセスメントのための基礎的知識（検体検査）
- 6.アセスメント1（情報収集の種類と方法）
- 7.アセスメント2（情報の整理）
- 8.アセスメント3（情報の分析・解釈の統合）
- 9.全体像の作成
- 10.優先順位の決定
- 11.看護問題の記述
- 12.期待される結果
- 13.看護計画の立案1
- 14.看護計画の立案2
- 15.実施・評価
- 16.看護記録の意義と必要性
- 17.情報の必要性と種類、電子カルテの基本的操作
- 18.活動-運動に問題がある患者の事例展開（情報収集）
- 19.活動-運動に問題がある患者の事例展開（情報の分析と解釈）
- 20.活動-運動に問題がある患者の事例展開（全体像、看護問題の特定）
- 21.活動-運動に問題がある患者の事例展開（期待される結果）
- 22.活動-運動に問題がある患者の事例展開（計画立案）

- 23. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報収集)
- 24. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報の分析と解釈)
- 25. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (全体像、看護問題の特定)
- 26. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (期待される結果)
- 27. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (計画立案)
- 28. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (実施・評価)
- 29. 看護診断の基礎
- 30. クリニカルパスの概要

成績の評価

前期 (定期試験40%) ・ 後期 (定期試験40%) ・ 課題および授業への取り組み度20%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。詳細については授業の中で説明する。

テキスト

1. 「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」 (ヌーベルヒロカワ)
2. 「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
3. 「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)
(2・3は1年次に購入した物)

参考資料

授業中に紹介する

オフィスアワー

月曜日 12:20~13:00

研究室・授業用E-mail

C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N090012 |
| 講義名 | 看護過程論B |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 基礎看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3104 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 中納 美智保 | 指定なし |

目的

看護は、あらゆる健康レベルにある人のニーズに対応し、その人らしい生活を支援するために看護過程を用いて実践する。この科目は人々の健康問題を解決する方法である看護過程について基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 看護過程の意義とそのプロセスを説明することができる。
2. ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程の基本的な展開方法が理解できる。
3. 紙上事例を用いて看護過程の基礎的な展開ができる。
4. 模擬的な電子カルテを用いて基本的な情報収集の方法が習得できる。
5. クリニカルパスと看護診断の基礎的知識が理解できる。

授業計画表

授業計画

- 1.看護過程と問題解決思考
- 2.看護過程のプロセスと事例
- 3.ゴードンの11の機能的健康パターン
- 4.アセスメントのための基礎的知識（生体検査と生体情報のモニタリング）
- 5.アセスメントのための基礎的知識（検体検査）
- 6.アセスメント1（情報収集の種類と方法）
- 7.アセスメント2（情報の整理）
- 8.アセスメント3（情報の分析・解釈の統合）
- 9.全体像の作成
- 10.優先順位の決定
- 11.看護問題の記述
- 12.期待される結果
- 13.看護計画の立案1
- 14.看護計画の立案2
- 15.実施・評価
- 16.看護記録の意義と必要性
- 17.情報の必要性和種類、電子カルテの基本的操作
- 18.活動-運動に問題がある患者の事例展開（情報収集）
- 19.活動-運動に問題がある患者の事例展開（情報の分析と解釈）
- 20.活動-運動に問題がある患者の事例展開（全体像、看護問題の特定）
- 21.活動-運動に問題がある患者の事例展開（期待される結果）
- 22.活動-運動に問題がある患者の事例展開（計画立案）

- 23. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報収集)
- 24. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (情報の分析と解釈)
- 25. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (全体像、看護問題の特定)
- 26. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (期待される結果)
- 27. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (計画立案)
- 28. 栄養-代謝に問題がある患者の事例展開 (実施・評価)
- 29. 看護診断の基礎
- 30. クリニカルパスの概要

成績の評価

前期 (定期試験40%) ・ 後期 (定期試験40%) ・ 課題および授業への取り組み度20%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」 (ヌーベルヒロカワ)
2. 「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
3. 「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)
(2・3は1年次に購入した物)

参考資料

授業中に紹介する

オフィスアワー

月曜日 12:20~13:00

研究室・授業用E-mail

C708研究室・nakano@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N094011 |
| 講義名 | 看護倫理学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 総合実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-4101 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 辻 幸代 | 指定なし |

目的

看護実践において最も大切なことは、看護専門職として、人々を健康で幸福な生活の実現に貢献することを自らの使命とし、倫理の重要性や倫理に関する原則や基本をふまえた行動がとれるよう、自己に問う姿勢を持ち続けることである。そこで、看護専門職あるいは看護学生として、倫理をふまえた看護実践ができるよう、臨床で遭遇するさまざまな倫理的問題を解決するための理論や知識を学ぶ。

到達目標

1. 人々の基本的人権について説明し、基本的人権の擁護の基礎的理解ができる。
2. 看護専門職に求められる倫理的責任と倫理的行動の基準について説明できる。
3. 看護を取り巻く倫理的課題とその背景を理解できる。
4. 事例を通して倫理的課題の実際を知る。
5. 倫理的課題を解決するための理論を知る。

授業計画表

授業計画

1. 倫理を学ぶ意義、基本的人権とは何かを理解する
2. 倫理に関する重要な概念を理解する
3. 倫理原則とは何かを理解する
4. 倫理的課題とその背景・歴史について理解する
5. 看護職が直面している倫理的課題の実際を理解する
6. 倫理的課題を解決するための理論 1
7. 倫理的課題を解決するための理論 2
8. 本当の看護・ケアとは何かを考える

成績の評価

定期試験90%と授業中に記載する振り返りシート10%で評価する。

自己学習

1. 授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行う。
2. 生命倫理で学修した内容を振り返って整理しておく。
3. 授業ごとに振り返りシートの記載を求めるので復習をして臨む。

テキスト

「系統看護学講座 専門分野1 看護学概論」(医学書院)1年次の際に購入したもの

参考資料

1. 「看護実践の倫理 第 版 倫理的意思決定のためのガイド」 サラ フライ, メガ
ン-ジェーン・ストーン著 片田範子, 山本あい子訳, 日本看護協会出版会

2. 「事例でまなぶ ケアの倫理」 ナーシング・サプリ編集委員会編, メディカ出版

オフィスアワー

水曜日 (12:10~13:10)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室 s.tsuji@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N102011 |
| 講義名 | 基礎看護学実習Ⅱ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 基礎看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3110 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 中納 美智保 | 指定なし |

担当教員

辻幸代・井手窪澄子・松下直子・山根木貴美代

目的

基礎看護学実習Ⅱでは、患者とのかかわりを通して患者の理解を深め、必要な看護に気づき実践していくためのプロセスを学ぶ。さらに実習を通して看護学生としての倫理観を高めることを目的とする。

到達目標

- 1.患者とのかかわりを通して日々の必要な看護援助を考え、実施することができる。
 - 1)日々の患者とのかかわりを通して患者の状況を捉え、必要な看護に気づくことができる。
 - 2)患者にとっての強みに気づくことができる。
 - 3)患者の状況に応じてかかわり方を変化させることができる。
 - 4)患者の状況にあった看護援助を実施することができる。
 - 5)実施した看護を記録することができる。
- 2.受け持ち患者の理解を深めることができる。
 - 1)患者とのかかわりやカルテから必要な情報が収集できる。
 - 2)情報を整理し科学的思考に基づいたアセスメントができる。
 - 3)患者の看護上の問題を見出すプロセスが理解できる。
- 3.看護学生としての適切な態度・責任ある行動をとることができる。
 - 1)チームの一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。
 - 2)医療従事者と適切なコミュニケーションをとることができる。
 - 3)受け持ち患者のプライバシーを守ることができる。
 - 4)清潔感のある身だしなみに整えることができる。
 - 5)実習を振り返り、学んだことを他者に伝えることができる。

授業計画表

授業計画

基礎看護学実習Ⅱ 実習要項を参照

- ・2月または3月に行う。
- ・急性期病院・地域支援病院等の医療施設で行う。
- ・原則1人の患者を受け持ち実習する。
- ・1グループ4～5名の学生で構成する。
- ・実習時期、実習病院など詳細については全体オリエンテーションで説明する。

成績の評価

実習記録を含め、実習評価表に基づいて評価する。

自己学習

オリエンテーションで説明する。

テキスト

テキストは指定しない。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日12:20~13:00 (中納)

研究室・授業用E-mail

C708研究室・nakano@kansai.ac.jp (中納)

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N129021 |
| 講義名 | 公衆衛生学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2304 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 笠松 隆洋 | 指定なし |

目的

健康の保持増進及び快適な生活環境を確保するための方策を学修する。

到達目標

健康への関心を深めるとともに、主体的に健康づくりに取り組む態度を養う。

授業計画表

授業計画

1. 健康の概念と公衆衛生学
2. 人口静態統計
3. 人口動態統計
4. 保健統計、傷病統計
5. 疫学
6. スクリーニング
7. 母子保健・学校保健
8. 成人保健・高齢者保健
9. 感染症（1）
10. 感染症（2）
11. 食品衛生
12. 国民栄養
13. 環境保健（1）
14. 環境保健（2）
15. 産業保健

成績の評価

定期試験の成績(90%)に平常点(10%)を考慮して評価します。

自己学習

講義終了後に教科書及び配布資料に再度目を通し復習するとともに、各章末の演習問題を解いておいて下さい。

履修上の注意

講義中の私語及び講義途中での退席を禁止します。

テキスト

- 「よくわかる専門基礎講座 公衆衛生(第9版)」(金原出版)
「国民衛生の動向(2017/2018)」(厚生労働統計協会)

参考資料

「シンプル衛生公衆衛生学2017」(南江堂)

「公衆衛生学(2018年版)」(医歯薬出版)

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N132011 |
| 講義名 | 公衆衛生看護学概論 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3409 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 平尾 恭子 | 指定なし |

目的

地域の人々が健康を保持・増進し疾病を予防できるよう、また疾病や障害をもちながらもその人らしく家族とともに地域で生活できるよう支援を行う公衆衛生看護の理念、活動目的、技法、保健活動の展開方法、保健所・保健センターで働く保健師の役割について、歴史的変遷をふまえて理解する。さらに、学校および企業における保健師の活動について知る。

到達目標

1. 公衆衛生看護の理念および公衆衛生看護に用いる概念について理解する。
2. 公衆衛生看護活動の目的、技法、保健活動の展開方法について理解する。
3. 保健所・保健センターで働く保健師の役割を理解する。
4. 学校保健および産業保健における保健師の活動を知る。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、健康と生活、地域
2. 公衆衛生看護とは
3. 公衆衛生看護の主要概念
4. ノーマライゼーション
5. 公衆衛生看護の活動方法①
6. 公衆衛生看護の活動方法②
7. 公衆衛生看護の活動方法③
8. 公衆衛生看護の活動方法
9. 公衆衛生看護の歴史的変遷①
10. 公衆衛生看護の歴史的変遷②
11. 母子保健と地域ケアシステム
12. 生活習慣病予防とヘルスプロモーション
13. 産業保健における保健師の活動
14. 学校保健における養護教諭の活動
15. 公衆衛生看護活動の展開

成績の評価

試験70%、レポート20%、授業への取り組み度10%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は「キャリア教育科目」に指定されている。

テキスト

「公衆衛生看護学jp 第4版」 (インターメディカル)

参考資料

1. 「最新公衆衛生看護学 第2版 総論 2018年版」 (日本看護協会出版会)
2. 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 (医学書院)
3. 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論」 (メヂカルフレンド社)
4. 「無名の語り 保健師が「家族」に出会う12の物語」 (医学書院)

オフィスアワー

水曜・12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N152012 |
| 講義名 | 子どもの健康と看護 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 成育看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3205 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 津島 和美 | 指定なし |

担当教員

西田紀子 濱田亜意子

目的

子どもは成長発達の途上であり、子どもを取り巻く養育者をはじめ環境との相互作用を通じて成長発達を遂げていく存在である。子どもにとっての健康とは健やかに成長発達を遂げることである。この科目では、子どもの成長発達に必要な基本的知識、ライフサイクルにおける子ども期の各期の特徴を学習し、子どもの成長発達過程を学ぶ。

到達目標

1. 成長発達の原理原則と基礎知識が理解できる。
2. ライフサイクルからみた子ども各期の特徴が理解できる。
3. 子どもの成長発達と環境との相互作用の必要性を説明することができる。

授業計画表

授業計画

1. 生涯人間発達からみた各子ども期の特徴(津島)
2. 成長発達の一般的原則と基礎知識(津島)
3. 乳児期、幼児期の形態的成長、機能的発達①(津島)
4. 乳児期、幼児期の精神的発達①(津島)
5. 乳児期、幼児期の精神的発達②(濱田、津島)
6. 学童期・思春期の特徴(西田)
7. 子ども期の特徴と事故予防(西田)
8. 子どもに関する諸統計(西田)

成績の評価

定期試験(95%) 授業への取り組み度(5%)

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)の予習と復習を行うこと。

テキスト

・「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①」医学書院

オフィスアワー

火曜日 16:00～:18:00

E-mail

研究室・授業用

5号館C704研究室 tushima@kansai.ac.jp(津島)

5号館C721研究室 nishida@kansai.ac.jp(西田)

5号館C266研究室 hamada@kansai.ac.jp(濱田)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N161011 |
| 講義名 | 女性の健康と看護 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 成育看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3201 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 田中 静枝 | 指定なし |

目的

母性の基礎となる概念について、対象の特徴や対象を取り巻く社会の変遷と現状の問題点について理解を深め、母性看護の課題や役割について学修する。また、リプロダクティブヘルスの水準を維持・増進し母性に関する健康障害の予防と回復に寄与するため、対象者の持てる力が引き出せるよう促し、生活を整えるために重要な関係法規を学修する。

到達目標

母性看護の対象者や、女性の健康への支援に必要な基礎的な知識を修得することができる。

授業計画表

授業計画

1. 母性看護の主要な概念
2. 母性看護における倫理的配慮・統計
3. 母性看護における法律・子育て支援施策
4. 生殖器と性文化のメカニズム
5. 性周期,性行動・性反応
6. 思春期・成熟期女性の健康と看護
7. 妊孕性に関わる健康問題と看護
8. 更年期・老年期女性の健康と看護

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する。

自己学習

指定されたテキストで授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

参考資料

- ・系統看護学講座専門 24 母性看護学概論：医学書院
- ・国民衛生の動向：厚生労働統計協会
- ・母性看護学Ⅱ：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に連絡のこと

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N169023 |
| 講義名 | 情報科学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤 |
| 科目ナンバリング | GE-1106 |
| 対象学科・学年 | 保険看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|------|
| 非常勤 | ◎ 増田 亮 | 指定なし |

担当教員

増田 亮

目的

本講義の目的は、社会において必要となるPCの基本的な操作及び知識を身に着けることである。医療においてもその他の分野においてもコンピューターの利用により機器の高度化が加速度的に進んでおり、そのような高度化に対応するためにも基礎的なPCの技能はすでに最低限の社会的常識となっている。そのような技能の基礎を成す、情報に対してどのような処理を施し、その結果をどのように表現するかという点の基本を習得することが目的である。

到達目標

PCの基本操作から始め、文書作成・画像処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活においておいて学ぶための1つの重要なスキルを身に着ける。

授業計画表

授業計画

- 1, 講義の概観、情報社会のセキュリティ、PCの基本操作
- 2, ワードソフトの利用 - 文章作成・編集
- 3, ワードソフトの利用 - 表の使い方
- 4, ワードソフトの利用 - 図の使い方
- 5, ワードソフトの利用 - レポートの作成
- 6, 表計算ソフトの利用 - 表の作成と編集
- 7, 表計算ソフトの利用 - 関数の利用
- 8, 表計算ソフトの利用 - グラフの作成
- 9, 表計算ソフトの利用 - データの活用
- 10, 表計算ソフトの利用 - 文書の作成
- 11, プレゼンテーションソフトの利用 - プレゼンテーションスライドの作成
- 12, プレゼンテーションソフトの利用 - 効率的な利用
- 13, 総合演習(1)
- 14, 総合演習(2)
- 15, まとめ

成績の評価

授業への取り組み度を含めた授業中に与える課題の提出物：60%

試験の成績：40%

自己学習

PCへの習熟度によるが、授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を推奨する。本講義では授業中に課す課題を時間内に完成させることを重視するため、習熟度に自信の無い場合は予習を重点的に行うことを奨める。実習内容・講義への質問について、「授業用E-mail」欄のアドレスへの連絡歓迎。

履修上の注意

この講義はPCを常に操作する実習形式をとるため、欠席をしないこと。課題を授業中に完成できなかった場合でも、出来たところまでを提出すること。欠席した回の課題の後日の提出については、原則認めない。また、多くの課題は互いに大きく関連するため、完成できなかった課題や欠席時の課題については自習しておくこと。加えて、講義に用いる課題等はテキストに基づいているので、テキストは毎回準備しておくこと。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」(noa出版)

オフィスアワー

月曜日 12:15～12:45

研究室・授業用E-mail

masudar@rri.kyoto-u.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N175011 |
| 講義名 | 心の健康と看護 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 臨床実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3307 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 和田 幸子 | 指定なし |

担当教員

川端明雄

目的

心の健康は、いきいきと自分らしく生きるための重要な条件であり、生活の質にも影響する。心の健康の保持・増進に向けて、心の構造と機能、ライフサイクルに起こりうる問題、現在社会における心の問題などの基本的な理解をする。精神医療の歴史の変遷をふまえ、個人の尊厳と権利擁護、社会参加を目指した精神看護の必要性、意義、目的を明確にする。

到達目標

1. 心の健康を維持機能と問題が起こりうる要因を理解する。
2. 心を病んだ人々への精神医療と看護の変遷を理解する。
3. 個人の尊厳・権利擁護、社会参加の必要性を理解し、精神看護の目的を明確化する。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション(和田)
心の健康とは、精神を病むとは、精神疾患や症状の捉え方
2. 精神医療と看護の歴史の変遷 (川端)
欧米諸国と日本の精神医療
3. 精神保健医療福祉の制度 (和田)
社会保障と権利擁護の必要性、精神障害者の生活を安定させる制度
4. 精神保健関連法規、精神医療福祉の現状と課題 (和田)
5. 心の構造と機能と発達 (和田)
自我と防衛機制、コーピング
6. ライフサイクルと起りうる問題 (和田)
産後うつ病、児童虐待、ひきこもり、不登校、過労死、更年期・高齢期うつ病、認知症
7. 看護師と心の健康問題 (川端)
職業生活におけるストレス
8. 多職種チームと精神看護の果たす役割 (和田)

成績の評価

試験90%、授業への取り組み度10%

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり（改訂第2版）」（南江堂）

参考資料

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp（和田）

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp（川端）

| | |
|----------|---------------|
| 講義コード | 2N282011 |
| 講義名 | 日常生活活動学 (ADL) |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす心と体のしくみ |
| 科目ナンバリング | N2-2107 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 東藤 真理奈 | 指定なし |

担当教員

東藤真理奈

目的

日常生活活動 (ADL)とは、日々の生活でおこなうあらゆる動作を指す。看護学の分野においても、退院後の予後や在宅生活をサポートする上では欠かせない学問となる。実際に、看護分野では回復期病棟においてADL能力を評価することも求められている。本講義では、ADLの概念、範囲、評価の方法、ADLを支援する自助具や機器について理解を深めることを目的とする。

到達目標

日常生活活動の定義と諸動作の仕組みを理解し、看護計画等の評価とケアに反映できるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 日常生活活動の概念
2. 日常生活活動と国際分類
3. 基本動作
4. 身の回り動作
5. コミュニケーション
6. 生活関連動作
7. ADL評価①
8. ADL評価②
9. 自助具とADL支援機器①
10. 自助具とADL支援機器②
11. 疾患別ADL①
12. 疾患別ADL②
13. 疾患別ADL③
14. 疾患別ADL④
15. まとめ

成績の評価

定期試験90%、授業中に行う小テスト10%にて総合的に評価します。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

実技も行いますので、その際は動きやすい服装を用意してください。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布します。

参考資料

「臨床理学療法評価法」(アイペック)

「理学療法テキストⅣ 日常生活活動(ADL) 第2版」(神陵文庫)

オフィスアワー

水曜日：12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

4号館5階第一共同研究室

Mail：todo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N317011 |
| 講義名 | 保健・医療・福祉制度論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2305 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 辻 幸代 | 指定なし |

担当教員

前久保 恵・平尾 恭子

目的

看護専門職が質の高い看護を提供するには、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度の概要とそれを規定する法令を理解し、それらの制度について適切に説明できなければならぬ。この科目では、社会において看護専門職がどのような役割を持っているかを正しく認識し、自分の責任を果たすために法令を知識として学ぶだけでなく、日常での生活やニュースなどと関連づけて考察することを目的とする。

到達目標

1. 人々の生活がさまざまな制度や法律で支えられていることを説明することができる。
2. 看護専門職の法的な役割や責務について述べるができる。
3. 我が国の保健・医療・福祉に関する主要な制度について述べるができる。
4. 身近なニュースに関心を持ち、保健医療福祉制度と関連づけて考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス及び法の概要 (辻)
2. 看護職に関する法 (辻)
3. 保健医療福祉の中で看護専門職の役割 (辻)
4. 医療法の概要 (辻)
5. 医療関係の資格に関する法 (辻)
6. 医薬品等に関する法 (辻)
7. 労働に関する法 (辻)
8. 社会保障と生活保護法 (前久保)
9. 高齢者福祉政策と介護保険制度 (前久保)
10. 介護保険法とその概要 (前久保)
11. 障害者に関する法 (前久保)
12. 地域・学校保健に関する法 (平尾)
13. 感染症予防・医療に関する法 (平尾)
14. 母子保健・福祉に関する法 (平尾)
15. 精神保健・福祉に関する法 (平尾)

成績の評価

定期試験100%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行う。

保健・医療・福祉に係る報道等に興味を持ち、授業で学修したことと関連づけると理解が深まる。

テキスト

「系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度」(医学書院)

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

辻幸代 水曜日12:10~13:10

前久保恵 水曜日12:10~13:10

平尾恭子 水曜日12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C707研究室(辻) s.tsuji@kansai.ac.jp

5号館7階C706研究室(前久保) maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C711研究室(平尾) kyo.hirao@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N320011 |
| 講義名 | 保健統計学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2307 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 宮井 信行 | 指定なし |

担当教員

宮井信行

目的

保健医療分野では、対象者から得られる様々な情報を収集してそれを処理している。近年、この情報処理にコンピュータ技術が大きく関わってきており、コンピュータによる情報処理手法の理解と習得が不可欠となってきた。本講義では、情報処理に必要な統計学の知識や技術を習得する。また、各種の保健統計のうち、人口動態統計および疾病統計から得られる指標をもとに、出生や死亡の動向、健康水準の現状などについて解説する。

到達目標

保健統計と統計学の基礎を理解し、簡単な統計分析が行え、研究に活用できるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.母集団と標本
- 2.データの種類と尺度
- 3.基本的な統計量（代表値と散布度）
- 4.母数と統計量、点推定と区間推定
- 5.平均と割合の推定
- 6.仮説検定
- 7.平均の差の検定
- 8.割合の差の検定
- 9.差の検定方法の種類と選択
- 10.相関と回帰
- 11.人口静態統計（国勢調査）
- 12.人口動態統計(1)（出生、死亡、生命表）
- 13.人口動態統計(2)（死因）
- 14.演習
- 15.まとめ

成績の評価

筆記試験(80点)、受講態度(10%)、小テストまたは小レポート(10%)で総合的に評価する。

自己学習

前回の授業の復習をしっかりと行う。

履修上の注意

授業は講義を中心とするが、できる限り学生との対話形式で進めて行くので、積極的に課題に取り組むように期待しています。

テキスト

テキストは使用しません。授業時に資料を配付します。

参考資料

「基本からわかる看護統計学入門 第2版」 (医師薬出版株式会社) 大木秀一 著

「やさしい保健統計学 第4版」 (南江堂) 懸俊彦 著

「ナースのための統計学 第2版」 (医学書院) 高木寛文 著

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N369011 |
| 講義名 | 老年看護学実習Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3412 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 岩井 恵子 | 指定なし |

担当教員

原 希代・川添 英利子

目的

地域で生活する高齢者とのふれあいを通して、高齢者の多様なライフスタイルを理解し、高齢者にとってよりよい生活とは何かを考えることができる。

到達目標

1. 多様な人生経験を積んだ高齢者の人格と生命を尊重できる。
2. 加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が理解できる。
3. 加齢や疾病が生活に及ぼす影響が理解できる。
4. 高齢者にとってよりよい生活とは何かを考えることができる。
5. 「和の会」を通してグループダイナミクスを学ぶ。

授業計画表

授業計画

1. 学内オリエンテーション
2. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者とのふれ合い）
3. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者とのふれ合い）
4. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者とのふれ合い）
5. 「和とどけ隊」活動（地域の健康な高齢者とのふれ合い）
6. 地域シニアクラブ行事での活動
7. 「和の会」の準備
8. 「和の会」の予行演習（熊取町煉瓦館で実施）
9. 「和の会」（熊取町煉瓦館で実施）
10. まとめ

*具体的な内容は「老年看護学実習Ⅰ実習要項」を参照する。

成績の評価

実習評価表（オリエンテーションで配布）にて評価する（100%）。

自己学習

高齢者の特徴（身体的・精神的・社会的）を復習しておく。

テキスト

関係する講義等で使用したテキストを参照する。

参考資料

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井、原、川添：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

原：5号館7階C710号室 k.hara@kansai.ac.jp

川添：5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N373011 |
| 講義名 | 老年期の健康と看護 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3401 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 岩井 恵子 | 指定なし |

目的

超高齢社会の日本において、老年期をいかに過ごすかということは、個人にとっても社会にとっても重要な問題となってきた。単に高齢者を理解するにとどまらず、老年期というライフスタイルで捉えていく。

そこで、まず高齢者を理解し、さらに高齢者が直面する様々な問題を分析し、高齢者がよりよく生活するために必要なことを医療・保健・福祉対策も含めて考え、老年看護学が担う役割を理解する。

到達目標

1. 日本の高齢者の現状と社会問題、支える制度を理解する。
2. 高齢者を理解し、加齢による生活への影響を理解する。
3. 高齢者のQOLについて考えることができる。
4. 老年看護学が担う役割を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 老年看護学の必要性（高齢社会の現状を含む）
2. 老年期のライフスタイル（発達課題・生活）
3. 加齢が生活に及ぼす影響
4. 高齢者のリスクマネジメント
5. 老年看護学の視点と倫理
6. 介護保険と医療保険
7. 高齢者のQOLとEnd of Life
8. Activityの必要性とその方法（補講期間に行う）

成績の評価

定期試験100%

自己学習

授業1コマについて2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
特に復習を充分行うようにする。

テキスト

ナーシンググラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害（メディカ出版）

参考資料

高齢社会白書（<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>）

その他、授業内で適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 12:20~13:00 メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N405011 |
| 講義名 | 健康教育論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3410 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 室谷 牧子 | 指定なし |

担当教員

平尾恭子、西井崇之

目的

個人、家族、集団または地域が直面している健康問題を解決するにあたり、自ら必要な知識を獲得して、必要な意志決定ができるよう、また、直面している問題に自ら積極的に取り組む実行力を身につけることができるよう支援する援助技術をPDCAサイクルに基づく健康教育の実践を通して理解を深める。

到達目標

- 1) 健康教育や健康学習に関する基礎理念を理解する。
- 2) 地域の健康課題を解決するためにPDCAサイクルに基づく健康教育（アセスメント、テーマ設定、指導案の作成、健康教育の実施、評価）の過程を展開することができる。
- 3) 対象の健康生活を支援する看護職の活動として、健康教育の意義を考察し述べることができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、健康教育の理論と方法
2. 地域アセスメントと健康課題の抽出
3. 健康教育の企画：対象とテーマの決定、指導案の作成
4. 健康教育の計画：台本・教材・媒体の作成
5. 健康教育の計画：デモンストレーション・修正
6. 健康教育の計画：健康教育の実施
7. 健康教育の計画：健康教育の実施
8. 健康教育の計画：健康教育の評価

成績の評価

評価は演習への取り組み度（グループワーク、媒体作成、健康教育の実際）40%・記録と成果物（事前学習・指導案・媒体・評価表・日々の記録・レポート）40%、小テスト20%にて評価する。

自己学習

公衆衛生看護概論の学習内容を復習しておくこと。日常から社会のニュースに関心をもち、自分なりに情報を整理しておく。事業の展開に合わせ必要な学習と作業を計画的に行うこと。自己学

習の目安は1コマにつき2コマ(180分)である。

履修上の注意

この科目は保健師国家試験受験資格を得るために必要な選択科目である。

テキスト

「公衆衛生看護学.JP.第4版」(インターメディカル) (2年前期に購入)

「国民衛生の動向2017/2018」(厚生統計協会) (2年前期に購入)

適宜プリント配布

参考資料

参考図書は随時提示する。

オフィスアワー

12:10~13:00

研究室・授業用E-mail

室谷：5号館7階C709研究室muroya@kansai.ac.jp、平尾：5号館7階C711研究室kyo.hirao@kansai.ac.jp、西井：5号館7階C721研究室nishii@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N454011 |
| 講義名 | カウンセリング論 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2303 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 狩野 真理 | 指定なし |

担当教員

狩野 真理

目的

臨床で心理学的な問題や症状を抱えた人々に対して、セラピストが行う専門的な心理カウンセリングの基礎的理解を行う。

「カウンセリング」については、単に「受容的に話を聴くこと」程度の意味で使われることも稀ではないが、この授業では、カウンセリングについての総論と、具体的な技法について、基本となる考え方を講義する。さらに、ロールプレイを通して、多忙な看護業務の中で用いることができる短時間で効果的なカウンセリング技術を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 「カウンセリング」について正しく理解し、心理学的問題を持っている人々への理解を深める。
2. 様々な技法を理解し、ロールプレイによって実践できる。
3. 看護場面を想定し、ロールプレイによる実践を繰り返すことによって、看護の場面にカウンセリングの技術を効果的に用いる事が出来る。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 基本的な関わり方：ジョイニング
4. 傾聴技法：受容と共感
5. 看護場面を想定
6. コンプリメント・リフレーミング
7. 解決志向アプローチ
8. 患者の状況別心理を理解する（1）
9. 患者の状況別心理を理解する（2）
10. 患者の状況別心理を理解する（3）
11. 対応に困る看護場面を想定（1）
12. アサーショントレーニング
13. 患者家族と対応する場面を想定（1）
14. 患者家族と対応する場面を想定（2）
15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

成績の評価

期末レポート70%・授業内小レポート30%

自己学習

講義・演習内容について日常生活の中で考え、実践してみてください。

履修上の注意

テーマに沿った内容のロールプレイとディスカッションを行います。積極的に取り組み、相互作用の中から多くのことを学び、身につけてください。

テキスト

講義の資料として、適宜プリントを配布します。

参考資料

- 「セラピスト入門 システムズアプローチへの招待」(日本評論社) 東豊
- 「ブリーフセラピーで切り抜ける 対人トラブル 即解決力」(日総研) 生田倫子
- 「ナースだからできる5分間カウンセリング」(医学書院) 小島通代・吉本武史編
- 「ナースが知りたい!患者さんの心理学」(西東社) 大木桃代編
- 「ナースのためのアサーション」(金子書房) 平木典子(編)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N455011 |
| 講義名 | ボランティア論 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護学専門展開 |
| 科目ナンバリング | N2-4401 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 室谷 牧子 | 指定なし |

担当教員

小西治子

目的

ボランティアは特別な活動ではなく、私たちの生活を支える重要な活動である。そこで本科目では、ボランティアの理念および沿革、ボランティア推進施策の現状を学ぶとともに、体験を通してボランティア活動の理念を知り、ボランティアの現状と課題、今後の展開の可能性等について考える。

さらに、ボランティアの地域における価値とコーディネーターの役割を理解し、住民の主体的な社会参加を促進する意義について考える。

到達目標

地域社会におけるボランティアの役割および必要性とボランティアを支援する仕組みを理解し、自らの目標を持ち、ボランティアを継続する力をつける。

授業計画表

授業計画

1. ボランティアを知る 小西
2. ボランティアの性格を学ぶ 小西
3. ボランティアの社会的変化、活動の準備を学ぶ 小西
4. ボランティア活動体験1（演習） 小西
5. ボランティア活動体験2（演習） 小西
6. 地域のボランティア活動①コミュニティにおけるボランティアの意義 室谷
7. 地域のボランティア活動②地域のボランティア活動体験1（演習） 室谷
8. 地域のボランティア活動③地域のボランティア活動体験2（演習） 室谷
9. 地域のボランティア活動④専門性を生かした地域活動 特別講義 井上
10. 地域のボランティア活動⑤住民のボランティア活動の実際 特別講義 熊取町ボランティア連絡会会員
11. 地域のボランティア活動⑥自分の住む町のボランティア活動を知る 室谷
12. 演習を経てボランティアについて考える 小西
13. ボランティアの必要性を考える 小西
14. 障がいのある人の生活とボランティアについて考える 小西
15. ボランティア活動の学び・まとめ、小テスト 小西

成績の評価

小テスト50%・演習の取り組みに関するレポート及び講義中の課題レポート50%により総合的に評価する

自己学習

日常からボランティアに関するニュースや情報を収集し、自分なりに解釈してください。授業で学んだこと、演習での体験を自分なりに社会人としてどう生かすかを常に考えるよう、日々学習してください。自己学習の目安は授業¹コマにつき、²コマ（180分）です。

テキスト

プリント配布

参考資料

「社会に貢献する」日本ファンドレイジング協会
「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会
「ボランティアのすすめ—基礎から実践まで(実践のすすめ)」ミネルヴァ書房

オフィスアワー

昼休み(12:10～13:00)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C709研究室(室谷)
muroya@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2N456011 |
| 講義名 | ライフサイクルと保健活動 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3411 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 平尾 恭子 | 指定なし |

担当教員

室谷牧子、西井崇之

目的

公衆衛生看護の活動方法について学習するとともに、母子、成人、高齢者の健康課題と保健施策について学び、地域における保健活動の実際を理解する。さらに、地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

到達目標

1. 母子、成人、高齢者の健康課題を理解する。
2. 母子、成人、高齢者の健康と生活に関わる法令、制度について知る。
3. 母子、成人、高齢者に対する地域保健活動の実際を理解する。
4. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、母子保健の動向
2. 乳幼児の発達、子育て支援
3. 妊娠期の健康課題と保健活動
4. 乳児期の健康課題と保健活動（西井）
5. 幼児期の健康課題と保健活動①（西井）
6. 幼児期の健康課題と保健活動②
7. 児童虐待と保健活動
8. 地域の子育て支援の実際
9. 成人保健の動向と保健師の役割（室谷）
10. 生活習慣病予防と保健活動（室谷）
11. 健康診査と支援の展開（室谷）
12. 高齢社会の現状と健康課題（室谷）
13. 地域で暮らす高齢者と家族への課題別アプローチ（室谷）
14. 地域包括支援センターの役割と地域包括ケアシステムの構築（室谷）
15. 歯科保健の動向と生涯にわたる歯科保健活動（室谷）

成績の評価

試験80%、レポート10%、授業への取り組み度10%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

既習科目については特に、下記内容の理解を深めておく。

1. 公衆衛生の理念、公衆衛生看護の活動方法および技術
2. 母子、成人、高齢者のライフサイクルの特徴と発達課題
3. 母子、成人、高齢者に関連する主要な疾患
4. 母子、成人、高齢者に関わる法令、制度

その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読しておく。

テキスト

1. 「公衆衛生看護学jp、第4版」(インターメディカル)
2. 「国民衛生の動向2017/2018」(厚生統計協会)

参考資料

適宜紹介する

オフィスアワー

水曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

平尾：5号館7階C711研究室、kyo.hirao@kansai.ac.jp

室谷：5号館7階C709研究室、muroya@kansai.ac.jp

西井：5号館7階C721研究室、nishii@kansai.ac.jp

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N457011 |
| 講義名 | 在宅看護方法論Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3406 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 前久保 恵 | 指定なし |

担当教員

上坂 智子・鹿島 英子

目的

『在宅療養と看護』で学んだ在宅看護の理念と対象理解を踏まえて、在宅看護の対象（人と家族）が地域社会の中で生きることを困難にしている病や障がいを理解し、尊厳をもって自らの望む場所で暮らす（生きる）ことを支える在宅看護の看護実践について学ぶ。

具体的には、対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に、地域社会システムの中で生きている対象の多様化するライフニーズに対してそのアセスメント能力を養い、在宅生活における健康ニーズを中心とした日常生活援助について必要な実践能力の基礎を形成する。

到達目標

対象のライフサイクルに添ったケアであることを前提に

1. 地域社会システムの中で生きている対象の多様なライフニーズと在宅生活における健康ニーズをアセスメントするための知識と考え方を修得する。
2. 在宅生活における健康ニーズを中心とした日常生活援助について理解し、必要な知識と技術を修得する。
3. 社会資源の活用や関係者の連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス。在宅療養生活継続のためのセルフケアの支援（前久保）
2. 日常生活を支える援助：排泄の援助①（鹿島）
3. 日常生活を支える援助：排泄の援助②（鹿島）
4. 訪問看護の実際（ゲストスピーカー）（前久保）
5. 日常生活を支える援助：排泄の援助③（鹿島）
6. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助①（前久保）
7. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助②在宅経管栄養法（前久保）
8. 日常生活を支える援助：食事・栄養の援助③在宅中心静脈栄養法（前久保）
9. 日常生活を支える援助：清潔の援助（上坂）
10. 日常生活を支える援助：移動・活動の援助①（上坂）
11. 日常生活を支える援助：事例を通して日常生活を考える（GW）（上坂）
12. 事例を通して日常生活援助を考える（演習）（前久保・上坂・鹿島）
13. 事例を通して日常生活援助を考える（演習）（前久保・上坂・鹿島）
14. 日常生活を支える援助：服薬の援助（前久保）
15. 日常生活を支える援助：感染の援助・災害時の援助（上坂）

成績の評価

筆記試験 90%・演習への取り組み度（レポート）10% を総合的に評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」（メディカ出版）*『在宅療養と看護』で購入済

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論② 在宅療養を支える技術」（メディカ出版）

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

前久保 恵 木曜日12：10～13：10

上坂 智子 木曜日12：10～13：10

鹿島 英子 木曜日12：10～13：10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室（前久保） maekubo@kansai.ac.jp

5号館7階C713研究室（上坂） uesaka@kansai.ac.jp

5号館7階C710研究室（鹿島） kashima@kansai.ac.jp

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N458011 |
| 講義名 | 在宅療養と看護 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3405 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 前久保 恵 | 指定なし |

目的

人と家族が地域社会の中で生きることを困難にしている病や障がいを理解し、尊厳をもって自らの望む場所で暮らす（生きる）ことを支える在宅看護の理念と看護について学ぶ。

具体的には、対象である人と家族を理解し、人々の多様な生き方を理解する。また、在宅看護制度やケアシステムを継続的包括的視点で捉え、対象が地域社会システムの中で生きることを支える制度や社会資源とその活用について理解し、地域包括ケアシステムにおける連携の要となつて、コミュニティーケア力を育み対象の生活を支える看護職の機能について学ぶ。

到達目標

1. 在宅看護の概念・基本理念を理解する
2. 在宅看護の対象を理解する
3. 訪問看護について理解する
4. 対象の生活を支えるコミュニティーケア力を育む看護職の機能、および、在宅看護制度やケアシステムを継続的包括的視点で理解する
5. 在宅ケアを支える制度・社会資源とその活用及び地域包括ケアシステムにおける連携とマネジメントについて理解する

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション／在宅看護の基本理念／在宅看護の対象の理解①
2. 在宅看護の対象の理解②
3. 対象者と家族の理解
4. 地域包括ケアシステムにおける連携とマネジメント①
5. 対象者と家族を支える訪問看護①
6. 対象者と家族を支える訪問看護②／在宅ケアを支える制度と社会資源①
7. 在宅ケアを支える制度と社会資源②
8. 地域包括ケアシステムにおける連携とマネジメント②

成績の評価

定期試験90%、課題レポート10%で総合的に評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

ナーシング・グラフィカ「在宅看護論① 地域療養を支えるケア」（メディカ出版）

参考資料

授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

前久保恵 火曜日12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階C706研究室 (前久保) maekubo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N459011 |
| 講義名 | 老年看護方法論ⅡA |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3403 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 川添 英利子 | 指定なし |

担当教員

岩井 恵子 原 希代 川添 英利子

目的

高齢者への生活支援の必要性と方法を理解し、実践することができる。

到達目標

1. 高齢者と円滑にコミュニケーションをとることができる。
2. 移動介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
3. 口腔ケアの必要性とその方法を理解し実践できる。
4. 食事介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
5. 更衣の必要性とその方法を理解し実践できる。
6. 排泄の必要性とその方法を理解し実践できる。

授業計画表

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション (SP*を用いた演習)
2. 高齢者とのコミュニケーション (SP*を用いた演習)
3. 高齢者とのコミュニケーション振り返り
4. 高齢者の自然な動作を考える
5. 高齢者の歩行を考える
6. 高齢者を持ち上げない移動介助 (ベッド⇄車椅子)
7. 高齢者を持ち上げない移動介助 (補助具の使用)
8. 高齢者が美味しく食べるための口腔ケア
9. QOLを高める食事の方法を考える①五感に働きかける食事介助の工夫
10. QOLを高める食事の方法を考える②安全な食事のための姿勢
11. 高齢者の更衣を考える①虚弱高齢者の更衣の工夫
12. 高齢者の更衣を考える②片麻痺のある高齢者の更衣の工夫
13. 高齢者のおむつからの尿漏れを科学する
14. QOLを高めるおむつの使用を考える①おむつによる生活への影響
15. QOLを高めるおむつの使用を考える②おむつの当て方の工夫

成績の評価

小テストあるいはレポート40%、定期試験レポート60%により評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこととする。

必ずシラバスで授業内容を確認し、疾病や症状など必要な知識については自己学習を行った上で授業に臨む。

履修上の注意

遅刻、欠席は減点対象となる。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学 (1) : 高齢者の健康と障害 (メディカ出版)

老年看護学 (2) : 高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考資料

演習の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

川添：水曜日12：20～13：00メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp (岩井 恵子)

5号館7階C710号室 k.hara@kansai.ac.jp (原 希代)

5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp (川添 英利子)

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N459012 |
| 講義名 | 老年看護方法論ⅡB |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3403 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 川添 英利子 | 指定なし |

担当教員

岩井 恵子 原 希代 川添 英利子

目的

高齢者への生活支援の必要性と方法を理解し、実践することができる。

到達目標

1. 高齢者と円滑にコミュニケーションをとることができる。
2. 移動介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
3. 口腔ケアの必要性とその方法を理解し実践できる。
4. 食事介助の必要性とその方法を理解し実践できる。
5. 更衣の必要性とその方法を理解し実践できる。
6. 排泄の必要性とその方法を理解し実践できる。

授業計画表

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）
2. 高齢者とのコミュニケーション（SP*を用いた演習）
3. 高齢者とのコミュニケーション振り返り
4. 高齢者の自然な動作を考える
5. 高齢者の歩行を考える
6. 高齢者を持ち上げない移動介助（ベッド⇄車椅子）
7. 高齢者を持ち上げない移動介助（補助具の使用）
8. 高齢者が美味しく食べるための口腔ケア
9. QOLを高める食事の方法を考える①五感に働きかける食事介助の工夫
10. QOLを高める食事の方法を考える②安全な食事のための姿勢
11. 高齢者の更衣を考える①虚弱高齢者の更衣の工夫
12. 高齢者の更衣を考える②片麻痺のある高齢者の更衣の工夫
13. 高齢者のおむつからの尿漏れを科学する
14. QOLを高めるおむつの使用を考える①おむつによる生活への影響
15. QOLを高めるおむつの使用を考える②おむつの当て方の工夫

成績の評価

小テストあるいはレポート40%、定期試験レポート60%により評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこととする。

必ずシラバスで授業内容を確認し、疾病や症状など必要な知識については自己学習を行った上で授業に臨む。

履修上の注意

遅刻、欠席は減点対象となる。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学 (1) : 高齢者の健康と障害 (メディカ出版)

老年看護学 (2) : 高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考資料

演習の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

川添：水曜日12：20～13：00メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp (岩井 恵子)

5号館7階C710号室 k.hara@kansai.ac.jp (原 希代)

5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp (川添 英利子)

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2N460011 |
| 講義名 | 老年看護方法論Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 老年・在宅実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3402 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 岩井 恵子 | 指定なし |

担当教員

原 希代 川添 英利子

目的

老年期の健康障害の特徴と生活への影響を理解し、QOLの向上を目指した看護を導き出すための知識を修得する。

到達目標

1. ICFの概念を理解する。
2. 高齢者とのコミュニケーションのための知識を修得する。
3. 老年期の健康障害が生活に及ぼす影響とその看護を見出すことができる。
4. 退院支援の必要性とその方法を理解することができる。
5. 高齢者のEnd of Life Careについて理解することができる。

授業計画表

授業計画

1. 高齢者とのコミュニケーション（模擬患者を用いた演習の説明を含む）（岩井）
2. ICFの考え方とその使い方（岩井）
3. 活動と休息を支える看護（岩井）
4. 歩行・移動を支える看護（廃用症候群の予防）（川添）
5. 転倒の予防とリハビリを受ける高齢者の看護（川添）
6. 食生活を支える看護（川添）
7. 排泄を支える看護（原）
8. 清潔を保つための看護（原）
9. 服薬管理とリスクマネジメント（川添）
10. 精神障害のある高齢者の看護（岩井）
11. 高齢者の急変予防とその対応（原）
12. 介護保険サービスの使い方（岩井・櫻井）
13. 退院支援とチーム医療（原）
14. 高齢者の終末期を支える看護（グリーンワーク・レスパイトケアを含む）（原）
15. 高齢者のEnd of Life Care（岩井）

成績の評価

定期試験100%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学 (1) : 高齢者の健康と障害 (メディカ出版)

老年看護学 (2) : 高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考資料

授業の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井、原、川添：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければその他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

岩井：5号館7階C701号室 iwai@kansai.ac.jp

原：5号館7階C710号室 k.hara@kansai.ac.jp

川添：5号館7階C721共同研究室 kawazoe@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------|
| 講義コード | 2N461011 |
| 講義名 | 成人看護方法論Ⅱ（急性期） |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 臨床実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3303 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 神戸 美輪子 | 指定なし |
| 教員 | 井村 弥生 | 指定なし |

担当教員

井村弥生 児嶋章仁 阿部香織

目的

健康状態が急激に変化し、生命危機にある対象者とその家族の身体的、心理的、社会的特徴について理解する。またその特徴を踏まえた、看護を提供するための基礎的知識を習得する。

到達目標

1. 急性期から回復期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を述べるができる。
2. 周手術期の各期の特徴と具体的な看護を述べるができる。
3. 看護過程を通じて対象に応じた看護実践について考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 救急医療の現状と急性期看護 (神戸)
2. 心肺蘇生状態の対応 (阿部)
3. 急性期患者の症状と看護・緊急性と重症度のアセスメント、生命危機と管理 (神戸)
4. 急性期患者の症状と看護・生命危機と管理 (児嶋)
5. 危機的状態への精神支援と代理意思決定支援 (神戸)
6. 手術を受ける患者の看護、術前の不安、ストレスについて (神戸)
7. 術前準備・不安のアセスメントと援助・術前評価 (児嶋)
8. 麻酔と手術体位とその影響、手術方法、術中安全 (児嶋)
9. 術後合併症のリスクマネジメント (井村)
10. 術後合併症と管理、術後疼痛 (井村)
11. 早期回復促進への援助 (阿部)
12. 術後合併症の予防、早期離床 (井村)
13. 術後の機能障害と生活制限への援助 (児嶋)
14. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える① (井村他)
15. 全身麻酔下で手術を受けた患者への看護・術後の合併症を考える② (井村他)

成績の評価

試験80%、レポート課題等20%、総合的に判断する

自己学習

急性期病態学、および疾患の理解を深めておくように。
急性期にある対象者の看護についてイメージ作りを行ってください。

授業1コマにつき2コマ（90分）相当の予習と復習が必要です。復習のポイントは、各回の重要ポイントの理解を深めることです。授業を通して、バイスタンダーとして応急処置が必要な場面に遭遇したときに何か手助けができるような知識と技術を身につけてください。

テキスト

- 1.周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ 2013
- 2.医学書院 臨床外科看護総論
3. 成人看護技術 南江堂

参考資料

- 1.講義から実習へ 周手術期看護1・2・3・4・5 編著 医歯薬出版株式会社 2009
- 2.エキスパートナーズ Mook36 まんがで見る術前・術後のケアのポイント、照林社, 2010
3. アセスメントに使える 疾患と看護の知識, 照林社, 2016.

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

5号館7階 714号室
kanbe@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------|
| 講義コード | 2N462011 |
| 講義名 | 成人看護方法論Ⅰ（慢性期） |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 臨床実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3302 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 北得 美佐子 | 指定なし |

担当教員

宇田 賀津、野田部 恵、今井 幸子

目的

慢性的な健康障害をもち、生涯にわたり生活をコントロールしていく必要がある対象者について、成人期にある人々の特性をふまえて、身体的・心理的・社会的特徴を総合的に理解する。また、対象者がセルフケアを行い生活を維持するとともに、急性増悪の予防が行えるために必要な看護支援の基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標

1. 慢性的な健康障害をもち対象およびその家族の、身体的・心理的・社会的特徴および健康問題を理解する。
2. 疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフケアの現状と課題をアセスメントできる。
3. 慢性疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について理解できる。
4. 慢性的な健康障害を持った対象に必要なとされる看護支援の特徴について理解する。
5. 慢性的な健康障害の急性増悪期の誘因を理解し、予防的に対応するための看護支援について理解する。

授業計画表

成人看護方法論Ⅰ（慢性期）

授業計画

1. 慢性期看護の特徴とその看護（北得）
2. セルフケア・自己管理支援（北得）
3. 糖尿病をもち患者の看護（北得/今井）
4. 膠原病・内分泌障害のある患者の看護（SLE）（北得/今井）
5. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）（宇田）
6. 呼吸機能障害のある患者の看護（肺炎・COPD）（宇田）
7. 循環器障害のある患者の看護（心不全）（外部講師）
8. 循環器障害のある患者の看護（心不全）（野田部）
9. 消化機能障害のある患者の看護（上部消化管疾患）
10. 消化機能障害のある患者の看護（下部消化管疾患）
11. 消化機能障害のある患者の看護（胆のう炎・膵炎）（野田部）
12. 消化機能障害のある患者の看護（肝炎・肝硬変）（野田部）
13. 慢性腎炎・腎不全をもち患者の看護（外部講師）
14. がんをもち患者の看護（北得）

15. 退院支援・社会的支援の獲得への援助) (北得)

成績の評価

筆記試験 90%、小テスト 10%

テキスト

系統看護学講座 成人看護学 2 (呼吸器疾患)、3 (循環器疾患)、4 (血液・造血器疾患)、5 (消化器疾患)、6 (内分泌・代謝疾患) 8 (腎・泌尿器疾患)、11 (アレルギー・膠原病・感染症疾患)、別冊 がん看護学 (医学書院)

*テキストは、系統別看護学講座 成人看護学 1~8、11および部冊のうち、各講義に該当するものを持参すること。

オフィスアワー

水曜日 12:00~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館 7階 C705研究室 kitae@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N463011 |
| 講義名 | 小児看護方法論Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 成育看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3206 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 津島 和美 | 指定なし |

担当教員

西田紀子 濱田亜意子

目的

小児看護の対象は、健康、不健康問わずすべての小児である。子どもの成長発達と健康を社会や環境との視点から捉えその特性を理解するとともに、子どもの身体的、精神的健康を支援するための基本的ヘルスケアを学習する。

到達目標

1. 発達段階とヘルスケア確立過程を述べるができる。
2. ヘルスケア確立と運動的発達、精神的発達、社会的発達の関連を述べるができる。
3. 発達段階を考慮した日常生活習慣確立への支援の必要性を述べるができる。
4. 発達段階、健康障害、安全、安楽を考慮したヘルスケア技術を習得することができる。
5. 子どもの示す自己表現の理解の方法を説明することができる。

授業計画表

授業計画

1. 授業概要(津島)
2. 子どもの発達段階と遊びの必要性(濱田 津島)
3. 学外学習計画(全員)
4. 学外学習計画(全員)
5. 小児看護の役割(津島)
6. 子どもの成長発達と基本的生活習慣の確立と支援①(津島)
7. 子どもの成長発達と基本的生活習慣の確立と支援①(濱田)
8. 子どもの成長発達と基本的生活習慣の確立と支援②(西田)
9. 子どもの成長発達と基本的生活習慣の確立と支援③(西田)
10. 子どもの成長発達と基本的生活習慣の確立と支援④(西田)
11. 発達課題と子どもの理解のためのコミュニケーション技術①(津島)
12. 発達課題と子どもの理解のためのコミュニケーション技術②(津島)
13. チャイルドプレイスペシャリストの役割(外部講師)
14. 成長発達、病状に応じた日常生活支援演習(全員)
15. 小児保健医療医療の動向と、保健医療サービス(西田)

成績の評価

定期試験(95%) 授業への取り組み度(5%)

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ・「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①」 医学書院
- ・「小児看護実習ガイド」 照林社

オフィスアワー

火曜日 16:00～18:00

研究室・授業用E-mail

5号館C704研究室 tushima@kansai.ac.jp (津島)

5号館CC721研究室 nishida@kansai.ac.jp (西田)

5号館C717研究室 hamada@kansai.ac.jp (濱田)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N464011 |
| 講義名 | 子育て支援論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護学専門展開 |
| 科目ナンバリング | N2-4403 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 平尾 恭子 | 指定なし |

目的

わが国の子育ての動向を理解するとともに、子どもに関わる上で必要なスキルや地域の子育て支援サービス等について学ぶ。さらに、事例を通して児童虐待および虐待の子どもへの影響を理解し、看護職（保健師・助産師・看護師）の役割について考察する。

到達目標

1. わが国の子育て支援の動向および課題、子育ての理念について理解する。
2. 子どもおよび子育て支援に必要なコミュニケーションスキルについて理解する。
3. 地域の子育て支援サービスについて理解する。
4. 事例を通して児童虐待および虐待が子どもに与える影響を理解する。
5. 子育て支援における関係機関・職種の連携および看護職（保健師・助産師・看護師）の役割について考察する。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、子育ての動向
2. しつけと体罰
3. 子どもとよい関係を築くコミュニケーションスキル
4. 親を支援するコミュニケーションスキル
5. 児童虐待と子どもへの影響
6. 事例を通して児童虐待を考える①
7. 事例を通して児童虐待を考える②

成績の評価

試験40%、レポート40%、授業への取り組み度20%とする。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
乳幼児の発育・発達、母子保健について復習しておくこと。

履修上の注意

保健師課程の選択科目ですが、子どもおよび親支援は看護師にとっても必要となるため、保健師課程に関わらず、ぜひ履修してください。

テキスト

プリントを配布する

参考資料

随時、提示する。

オフィスアワー

水曜12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C711研究室・kyo.hirao@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2N465011 |
| 講義名 | 基礎看護技術論ⅢA（診療の補助技術） |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 基礎看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3107 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 井手窪 澄子 | 指定なし |

担当教員

松下直子・山根木貴美代

目的

看護師の役割のひとつである診療の補助技術を学修する。この科目では、治療や検査を必要としている対象者の心理を理解し、対象者が安全で安楽に治療や検査を受けることができるための基本的知識と看護技術を修得することが目的である。

到達目標

1. 酸素吸入療法、口腔内吸引など呼吸・循環を整える基本的技術を習得する。
2. 無菌操作に関連した知識を理解し、基本的な無菌操作の技術を習得する
3. 検体検査・生体検査の基礎的知識を理解する。
4. 演習をとおして対象者に関心を持ち看護師として適切な行動を考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 呼吸に関するケアを必要とする患者への看護、酸素吸入療法に関する基礎知識
2. 一時的吸引（口腔）、ネブライザーに関する基礎知識
3. 呼吸に関するケアを必要とする患者へのケア【演習】
4. 消毒と滅菌の方法に関する基礎知識、感染性廃棄物に関する基礎知識
5. 無菌操作の技術【演習】
6. 一時的導尿・膀胱留置カテーテルの管理に関する基礎知識
7. 一時的導尿の技術【演習】
8. 生体検査に関する基礎知識
9. 検体検査に関する基礎知識
10. 静脈血採血に関する基礎知識
11. 静脈血採血の技術【演習】
12. 与薬に関する基礎知識①
13. 与薬に関する基礎知識②
14. 与薬に関する基礎知識③
15. 総合演習

成績の評価

筆記試験80%、事前学習・演習記録・授業での取り組み度20%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)

(1,2ともに1年次購入したもの)

参考資料

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日 12:00~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C716

idekubo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2N465012 |
| 講義名 | 基礎看護技術論ⅢB（診療の補助技術） |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 基礎看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3107 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 井手窪 澄子 | 指定なし |

担当教員

松下直子・山根木貴美代

目的

看護師の役割のひとつである診療の補助技術を学修する。この科目では、治療や検査を必要としている対象者の心理を理解し、対象者が安全で安楽に治療や検査を受けることができるための基本的知識と看護技術を修得することが目的である。

到達目標

1. 酸素吸入療法、口腔内吸引など呼吸・循環を整える基本的技術を習得する。
2. 無菌操作に関連した知識を理解し、基本的な無菌操作の技術を習得する
3. 検体検査・生体検査の基礎的知識を理解する。
4. 演習をとおして対象者に関心を持ち看護師として適切な行動を考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 呼吸に関するケアを必要とする患者への看護、酸素吸入療法に関する基礎知識
2. 一時的吸引（口腔）、ネブライザーに関する基礎知識
3. 呼吸に関するケアを必要とする患者へのケア【演習】
4. 消毒と滅菌の方法に関する基礎知識、感染性廃棄物に関する基礎知識
5. 無菌操作の技術【演習】
6. 一時的導尿・膀胱留置カテーテルの管理に関する基礎知識
7. 一時的導尿の技術【演習】
8. 生体検査に関する基礎知識
9. 検体検査に関する基礎知識
10. 静脈血採血に関する基礎知識
11. 静脈血採血の技術【演習】
12. 与薬に関する基礎知識①
13. 与薬に関する基礎知識②
14. 与薬に関する基礎知識③
15. 総合演習

成績の評価

筆記試験80%、事前学習・演習記録・授業での取り組み度を20%で評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

1. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」 (医学書院)
2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」 (医学書院)

(1,2ともに1年次購入したもの)

参考資料

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日 12:00~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C716

idekubo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N466011 |
| 講義名 | 精神看護方法論Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 臨床実践看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3308 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 和田 幸子 | 指定なし |

担当教員

川端明雄

目的

心を病む人々がリカバリーできるような看護に向けて、精神看護の基盤となる考え方、精神症状とその障害、薬物療法・精神療法・精神科リハビリテーション、リスクマネジメントなどを理解する。心を病む人々のセルフケアを支援するための看護と、患者・看護師関係の発展過程や治療的かかわりを省察する意義と方法を理解する。

到達目標

1. 精神看護に役立つ理論、モデルの知識を得る。
2. 援助過程を省察するための意義と方法を理解する。
3. 心を病む人々のセルフケアを高める各種治療、看護を理解する。

授業計画表

授業計画

1. 精神看護の基盤となる考え方 (和田)
リカバリー・ストレングス・エンパワメント
2. 援助関係の構築 (和田)
信頼関係・ペプロー・プロセスレコードの活用
3. 精神症状の捉え方・精神症状の理解 (和田)
ストレス - 脆弱性モデル、レジリアンスモデル、生物心理社会モデル、危機の概念
4. 精神看護に関連するコミュニケーション (和田)
5. 精神症状とその障害① (和田)
6. 精神症状とその障害② (和田)
7. ロールプレイに基づく検討 (拒絶場面) (和田)
8. 精神療法 (個人と集団)、認知行動療法、SST (川端)
9. セルフケアへの援助 (日常生活支援) ① (和田)
10. セルフケアへの援助 (日常生活支援) ② (和田)
11. 薬物療法の意味と看護の役割 (川端)
12. 各種薬物の作用機序と副作用 (川端)
13. 社会参加への働きかけ、精神科リハビリテーション (和田)
14. 入院形態と精神科病棟の環境 (川端)
15. 精神障害をもつ人への安全管理 (セーフティマネジメント) (和田)

成績の評価

試験90%、授業への取り組み度10%にて評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり(改訂第2版)」(南江堂)

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア(改訂第2版)」(南江堂)

参考資料

講義中に適宜紹介

オフィスアワー

金曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室 s.wada@kansai.ac.jp (和田)

5号館7階C721研究室 kawabata@kansai.ac.jp (川端)

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2N467011 |
| 講義名 | 食生活と健康 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす生活と保健 |
| 科目ナンバリング | N2-2302 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 黒木 知美 | 指定なし |

担当教員

黒木 知美

目的

看護の対象となるあらゆる人々の健康保持・増進・回復のために健全な食生活を営むことができるように援助するための専門的な知識と実践力を身につける。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス
2. 栄養と栄養素について
3. 日本人の食事摂取基準について
4. 臨床栄養 糖尿病
5. 臨床栄養 糖尿病
6. 臨床栄養 糖尿病
7. 自身の食生活の分析・事例紹介
8. 臨床栄養 高血圧
9. 臨床栄養 脂質異常症
10. 臨床栄養 腎疾患
11. 臨床栄養 腎疾患（人工透析）
12. NSTについて
13. ライフステージ別食生活
子どもの「食べる力」をはぐくむことへの支援・食育について
14. ライフステージ別食生活
高齢者の「食生活を支えること」への支援・患者の自己実現を援助
15. まとめ

成績の評価

試験（60%） 平常点（10%） レポート（30%）

履修上の注意

授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめて、理解を深めておくこと

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する

参考資料

「訂 日本食品標準成分表」

「第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表」

オフィスアワー

月曜日 12:10-13:00 (看護棟5階 講師控室)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N468011 |
| 講義名 | 看護とくすり |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2207 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 町谷 安紀 | 指定なし |

担当教員

町谷 安紀

目的

看護師が日常業務の中で薬を取り扱う場面は非常に多い。また医療事故の多くは、薬剤が関連している。

講義では、体の機能を理解した上で、薬について基礎教育の段階でしっかりと学び、将来の看護の質の向上及び薬物治療についての知識の習得を目的とする。

到達目標

1. 薬の取り扱いについて理解できる。
2. 薬の薬物動態について理解できる。
3. 疾患と薬物治療について関連付け、薬の理解と適切な取り扱いができる。
4. 看護における薬物治療の流れを理解し、治療経過の評価及び副作用を把握し、アセスメントできる。

授業計画表

授業計画

【具体的な内容に関しては使用するテキストの発刊後に示します】

〈薬理学総論〉

1. 薬理学を学ぶにあたって・薬理学の基礎知識（前編）
2. 薬理学の基礎知識（中編）
3. 薬理学の基礎知識（後編）

〈薬理学各論〉

4. 末梢での神経活動に作用する薬物
5. 中枢神経系に作用する薬物（前編）
6. 中枢神経系に作用する薬物（後編）
7. 心臓・血管系に作用する薬物（前編）
8. 心臓・血管系に作用する薬物（後編）
9. 抗アレルギー薬・抗炎症薬
10. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（前編）
11. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（後編） ・物質代謝に作用する薬物
12. 抗がん薬・免疫治療薬
13. 皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物
14. 抗感染症薬（前編）
15. 抗感染症薬（後編） 消毒薬

成績の評価

試験70%・毎回講義前に実施する小テスト30%

(追試験・再試験に関しては、小テストの点数を考慮せず、試験100%とする。)

自己学習

生体機能や病態の説明を行い、薬理の内容を説明するが、生理や病態生理の内容をしっかりと予習すること。

履修上の注意

講義内容に関しては、臨床に関わり、看護師としての知識として非常に重要な内容である。毎回（初回を除く）講義前に前回の内容の小テストを行うので、復習をしっかりと行うこと。看護師国家試験に出題されている内容についても紹介を行う。

テキスト

講義開始前【8月頃】に別途案内する。

参考資料

授業内で適宜紹介する

オフィスアワー

講義前後

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N469011 |
| 講義名 | 看護にいかす疾病論Ⅴ（老年） |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2206 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 岩井 恵子 | 指定なし |

担当教員

畑村 育次・紀平 為子

目的

高齢化率27%超の我が国において、高齢者の加齢による変化や疾患を理解することは不可欠である。そこでこの講義では、加齢による心身の変化、高齢者に特徴的な病態や疾患を理解することを目的とする。

到達目標

1. 加齢に伴う身体的・精神的変化を説明できる。
2. 高齢者の疾患について、病態・診断・治療が理解できる。
3. 認知症について説明できる。
4. 認知症が生活に及ぼす影響が説明できる。

授業計画表

授業計画

1. 加齢・老化とは（高齢者の特徴を含む）（畑村）
2. パーキンソン病（紀平）
3. 脳梗塞（紀平）
4. 心・血管系と加齢及び疾患（畑村）
5. 腎・泌尿器と加齢及び疾患（畑村）
6. 認知症の病態・要因・評価法（紀平）
7. 認知症の中核症状とBPSD（岩井）
8. 呼吸器と加齢及び疾患（畑村）
9. 骨・筋肉（運動器）と加齢及び疾患（畑村）
10. 消化器と加齢及び疾患（畑村）
11. せん妄（紀平）
12. 認知症が生活に及ぼす影響（岩井）
13. 畑村担当の6回分の模擬試験（畑村）
14. 事例で学ぶ認知症（コミュニケーション）（岩井）
15. 事例で学ぶ認知症（BPSDの対応）（岩井）

成績の評価

定期試験100%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

老年看護 病態・疾患論 (医学書院)

ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2)：高齢者看護の実践 (メディカ出版)

参考資料

講義内で適宜紹介する。

オフィスアワー

岩井：水曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

紀平：木曜日 12：20～13：00 メールで事前に連絡をいただければ他の日時でも調整可。

研究室・授業用E-mail

5号館7階C701研究室 (岩井) iwai@kansai.ac.jp

診療・研究棟4階402研究室 (畑村) i-hatamura@kansai.ac.jp

診療・研究棟4階408研究室 (紀平) tkihira815@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N470011 |
| 講義名 | 看護にいかす疾病論Ⅳ（母性・小児） |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2205 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 矢本 希夫 | 指定なし |

担当教員

（母性）矢本 希夫

（小児）原田 智・宮下 律子・中西 直之・木岡 直美・栗並 樹里

目的

（母性）本科目では、先ず女性の生殖機能の基本的な概念、すなわち排卵や月経がどのようにして起こるのか、卵巣ホルモンの女性の心身に及ぼす影響などについての理解を深めるとともに、代表的な婦人科疾患や正常妊娠・分娩の経過とその異常などの基本的知識を学ぶことを目的とする。

（小児）小児の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、小児特徴的な疾患について臓器別に病態、治療を学習する。

到達目標

（母性）看護師、保健師、助産師として、女性の生殖機能や代表的な疾患等を理解することで、女性の患者様に対して適切に対応できることを目標とする。

（小児）1.成長と発達を理解する。2.小児の特徴的な疾患について病態を説明できる。3.疾病の予防、治療、生活指導を説明できる。

授業計画表

授業計画

（母性）

1. 女性生殖器の局所解剖と生理
排卵と卵巣ホルモン、子宮内膜の周期性と月経
2. 月経異常の診断と治療；
無月経、無排卵症、月経困難症、月経前緊張症、更年期障害
3. 骨盤内の炎症および性感染症
4. 代表的な婦人科良性疾患；子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍
5. 代表的な婦人科悪性疾患；子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん
6. 不妊症と避妊について
7. 正常妊娠と正常分娩・産褥の経過
8. 異常妊娠と異常分娩・産褥の概論

（小児）

- 1.9/26 神経疾患（木岡）
- 2.10/2 感染症・呼吸器疾患（中西）
- 3.10/17 成長と発達、新生児、先天異常（原田）
- 4.10/24 代謝性・内分泌疾患（宮下）
- 5.10/31

消化器 (中西)

6.11/7 悪性新生物、血液・造血器疾患 (宮下)

7.11/14 免疫・アレルギー性疾患 (原田)

8.11/21 循環器・腎疾患 (栗並)

成績の評価

(母性) 筆記試験および平常点。

(小児) 筆記試験の成績を重視する。但し、レポート提出等を含め総合的に評価する。

自己学習

(母性) 配られた資料を十分に復習すること。

(小児) 講義前にテキストを学習しておくこと。

履修上の注意

(母性) 学期末筆記試験と出席で総合評価する。

(小児) 講義では、臨床状況を設定した内容まで行う。十分な事前学習が必要である。

テキスト

(母性) 「母性看護実践の基本」(メデイカ出版)

(小児) 「系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2」(医学書院)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N471011 |
| 講義名 | 看護にいかず疾病論Ⅲ（精神） |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかず疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2204 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 郭 哲次 | 指定なし |

担当教員

郭 哲次

目的

精神疾患は原因不明の疾病が多く、疾病の表現形態も罹る個人によって多様である。我々は、診断された精神の病気自体を理解し、患者自身の困難を本当に意味で了解するのは容易ではない。こうした意味で精神科看護にあたる場合に、精神科看護で必須となる精神疾患・病態の知識を身に付け、病を持つ患者に対する態度、最善の援助法を考え学習することを目的とする。

個別の学習目標としては、患者の置かれている状況から、困難や葛藤がどこにあるかを見出すことができること、精神障害の予防や危機介入の方法、障害が疑われる人の診察、診断方法が如何になされているかについて理解できること。主な精神障害の、分類、疫学、成因、病態、症状と経過、治療の概要を理解することができることなどである。

到達目標

一般看護および精神科看護に欠かせない基本的な精神疾患について十分に理解し、臨床実習において利用可能な知識として身につける

授業計画表

授業計画

1. 総論① …… 予備知識として精神疾患の基礎知識を概観する
2. 総論② (P2～77) 教科書
3. 総論③ (P2～77)
4. 統合失調症（内因性）① (P80～152)
5. 統合失調症（内因性）② (P80～152)
6. 躁うつ病（内因性）① (P154～172)
7. 躁うつ病（内因性）② (P154～172)
8. 神経症（心因性）① (P174～224)
9. 神経症（心因性）② (P174～224)
10. 中間まとめ
11. 外因性精神障害①（概念） (P236～278)
12. 外因性精神障害②（各論） (P236～278)
13. 外因性精神障害③（各論） (P236～278)
14. 外因性精神障害④（各論） (P236～278)
15. 総まとめ

成績の評価

最終試験80%、授業への取り組み20%（受講態度減点対象）

自己学習

教科書を用いて予習・復習を行うこと

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと

(書き込み等により教科書自体を自分用にカスタマイズしてゆくこと)

履修上の注意

この領域の予備知識や体験なく、未知の精神疾患を正しく捉えることは容易ではない。

教科書として使用するテキストは初学者にとっては比較的難解であるため事前に読んでその意味を考えておくことが必要である。このためにも、日々の新聞等、関連記事に注意を向け、参考文献に挙げたテキスト等により疾患の概略的予備知識を事前に持つておくことが望まれる。

テキスト

「看護のための精神医学 第2版 医学書院」

(単なる知識ではなく、主要精神疾患の見方・捉え方、患者の対応の仕方を中心に考える)

参考資料

「コメディカルのための専門基礎分野テキスト2版 精神医学 中外医学社」(精神疾患の知識を網羅的に説明)

その他、講義中に紹介。

オフィスアワー

木曜日 12時から、約1時間(原則として事前予約が必要)

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階403研究室 tkaku@kansai.ac.jp (郭 哲次)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N472011 |
| 講義名 | 看護にいかす疾病論Ⅱ（急性） |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2203 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 神戸 美輪子 | 指定なし |
| 教員 | 井村 弥生 | 指定なし |

担当教員

他 外部講師

目的

「看護にいかす病因・病態学」で学んだ知識を発展させ、とくに外科的治療を必要とする各系統の代表的な疾病の病因・症状・検査・診断・治療を学び、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。代表的な疾病のEBM（evidence-based medicine）を学習し、EBN（evidence-based nursing）活用する能力を養うことを目的とする。

到達目標

1. 外科的治療を受ける患者の侵襲と生体反応について理解できる。
2. 麻酔や手術に関する基本事項を理解できる。
3. 各系統の代表的な疾病の術式および合併症について理解できる。
4. 知識を統合しEBNに活用する論理的な思考的態度をもつ。

授業計画表

授業計画

1. 侵襲と生体反応
2. 麻酔法（1）
3. 麻酔法（2）
4. 麻酔法（3）
5. 運動器疾患（1）骨折
6. 運動器疾患（2）人工関節置換術
7. 運動器疾患（3）リウマチ疾患
8. 運動器疾患（4）脊椎疾患
9. 消化器疾患（1）食道・胃
10. 消化器疾患（2）大腸がん
11. 消化器疾患（3）肝臓・胆嚢の疾患
12. 消化器疾患（4）膵臓の疾患・
13. 消化器疾患（5）小児外科
14. 消化器疾患（6）小児外科 ヘルニア・虫垂炎
15. 耳鼻咽喉科疾患（1）鼓室形成術などの耳疾患
16. 耳鼻咽喉科疾患（2）副鼻腔手術など
17. 呼吸器疾患（1）開胸術
18. 呼吸器疾患（2）胸腔鏡下手術・胸腔ドレナージ術

19. 脳血管疾患 (1) 水頭症・脳腫瘍
20. 脳血管疾患 (2) 頭部外傷・開頭術(ドレナージ術含む)
21. 脳血管疾患 (3) 髄膜腫など
22. 循環器疾患 (1) 開心術
23. 循環器疾患 (2) 血管内操作による手術 (IVR)
24. 腎泌尿器疾患 (1) 腎がん
25. 腎泌尿器疾患 (2) 前立腺肥大症 (経尿道的内視鏡手術)
26. 女性生殖器疾患 卵巣・子宮摘出術
27. 婦人科疾患 乳がん
28. 感染学
29. 移植医療
30. まとめ

成績の評価

定期試験90%, 小テスト10%

自己学習

学習範囲は広いですが、各回の重要ポイントは復習しておいて下さい。この科目は成人看護方法論や成人看護展開論、成人看護学実習につながる重要な科目です。授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うことが必要です。各回とも異なるテーマで講義がすすみますので、授業計画に注意し、関連する解剖生理・病態など既に学んだところは必ず自己学習して受講して下さい。

テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第11版, 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第9版, 医学書院
 系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学 [10]運動器

参考資料

系統看護学講座 専門分野Ⅱ成人看護学[2]呼吸器系統 [3]循環器 [4]血液・造血器Ⅱ成人看護学
 [5]消化器[7]脳・神経 [8]腎・泌尿器 [9]女性生殖器 [14]耳鼻咽喉, 医学書院

研究室・授業用E-mail

研究室 C714
 kanbe@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2N473011 |
| 講義名 | 看護にいかす疾病論Ⅰ（慢性） |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進 |
| 科目ナンバリング | N2-2202 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 北得 美佐子 | 指定なし |

担当教員

小河健一、畑村育次、水越正人

目的

様々な疾病の病因、症状、検査、診断過程、治療などについて臓器ごとに学修し、疾病の成り立ちと回復過程を理解する。さらに、それを踏まえた観察点や生活上の注意点を関連づけて学ぶ。
 小河：各種内科疾患についての基礎知識を修得する。単に内科疾患について丸暗記するのではなく、各種内科疾患における発症原因と特徴、そのために患者がどのような苦痛や悩みを抱えることになるのか代表的な疾患を通じて理解し、他の疾患でも応用ができるように学修する。また、各種検査の方法や指導、観察点なども理解する。

到達目標

1. 成人における慢性疾患の病態について説明できる。
2. 病態に基づいた治療・観察点・生活上の注意点をを説明できる。

小河：療養チームの中で一番患者と近い位置関係にあるメンバーとして、患者を理解し、患者に寄り添え、患者に適切な指導ができるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 呼吸器疾患 (1)
2. 呼吸器疾患 (2)
3. 呼吸器疾患 (3)
4. 呼吸器疾患 (4)
5. 循環器疾患 (1)
6. 循環器疾患 (2)
7. 循環器疾患 (3)
8. 循環器疾患 (4)
9. 腎・泌尿器疾患 (1)
10. 腎・泌尿器疾患 (2)
11. 腎・泌尿器疾患 (3)
12. アレルギー・膠原病 (1)
13. アレルギー・膠原病 (2)
14. 感染症 (1)
15. 感染症 (2)
- 16.

- 脳・神経疾患 ()
- 17. 脳・神経疾患 (2)
- 18. 脳・神経疾患 (3)
- 19. 脳・神経疾患 (4)
- 20. 脳・神経疾患 (5)
- 21. 消化器疾患 (1)
- 22. 消化器疾患 (2)
- 23. 消化器疾患 (3)
- 24. 消化器疾患 (4)
- 25. 消化器疾患 (5)
- 26. 内分泌・代謝疾患 (1)
- 27. 内分泌・代謝疾患 (2)
- 28. 内分泌・代謝疾患 (3)
- 29. 血液・造血器疾患 (1)
- 30. 血液・造血器疾患 (2)

(担当)

- 1～4、9～15 畑村
- 5～8 水越
- 16～28 小河
- 29～30 福島

成績の評価

定期試験 100%で評価する。

自己学習

授業 1 コマにつき90分相当の予習と復習を行うこと。

小河：予習としては、授業に関係する基礎分野（解剖学、生理学、生化学など）を復習して授業に臨む。

しっかりと復習し、授業で取り上げることができなかった疾患についても自己で整理・理解する。

テキスト

- ・第1～15、29、30回の講義については各担当から資料を配付する。
- ・小河：系統看護学講座 成人看護学 5（消化器疾患）、6（内分泌・代謝疾患）、7（脳・神経疾患）（医学書院）：テキストを必ず授業に持参すること。

参考資料

系統看護学講座 成人看護学 2（呼吸器疾患）、3（循環器疾患）、4（血液・造血器疾患）、8（腎・泌尿器疾患）、11（アレルギー・膠原病・感染症疾患）、医学書院

オフィスアワー

質問などがある場合は、該当する教員にメールで連絡してください。

北得：水曜日：12:00-13:00

小河：月曜日：12:00-12:45

木曜日：12:00-12:45

不在のこともありますので、できるだけ前もって連絡お願いします。

上記以外の時間帯も連絡してもらえると可能な日時を相談します。

研究室・授業用E-mail

(北得) 5号館7階 C705研究室 kitae@kansai.ac.jp

(畑村) 診療・研究棟3階 402研究室 i-hatamura@kansai.ac.jp

(小河) 診療・研究棟3階 309研究室 ogawa@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2N476011 |
| 講義名 | 母性看護方法論Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 科目分類・分野名 | 成育看護学 |
| 科目ナンバリング | N2-3202 |
| 対象学科・学年 | 保健看護学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 田中 静枝 | 指定なし |

目的

母性看護学は次世代の健全育成をめざし、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした看護活動を支える実践科学である。女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、対象に適切な看護を実践するための方法を学修する。

到達目標

周産期にある対象の健康状態を理解し、対象に必要な基礎的な看護援助について述べることができる。

授業計画表

授業計画

1. 妊娠の成立と胎児の発達に伴う妊婦の身体的変化
2. 妊娠に伴う心理的变化と看護ケア
3. 妊婦の日常生活と看護ケア
4. 妊娠中に起こる不快症状とリスクへの看護ケア・
5. 分娩に伴う産婦・胎児の変化と看護アセスメント
6. 産痛と産婦及び家族のニーズと看護ケア
7. 分娩進行と産婦・胎児のリスク、メンタルヘルスケア
8. 産褥期の身体的変化と適応
9. 褥婦への看護ケアの視点
10. 褥婦のフィジカル・アセスメントと看護ケア
11. 褥婦の心理社会的変化のアセスメントと看護ケア
12. 新生児とは・新生児看護の意義
13. 新生児の生理学的適応
14. 新生児のアセスメント
15. 母乳育児と看護

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する。

自己学習

指定されたテキストでの事前学習は授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

助産師課程履修者選考試験において、母性看護学に関連する科目に相当する。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

母性看護技術：メディカ出版

参考資料

病気が見える産科：MEDIC MEDIA

母性看護学1妊娠分娩：医歯薬出版株式会社

母性看護学2産褥・新生児：医歯薬出版株式会社

母性看護学：医学芸術社

母乳育児支援スタンダード：医学書院

妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW

マタニティ診断ガイドブック：医学書院

ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院

オフィスアワー

随時可能も事前に予約の事

研究室・授業用E-mail

5号館C703研究室 s.tanaka@kansai.ac.jp